

や か た

平成 2 8 年 6 月 2 4 日 (金)

発行責任者 校長 藤田秀平



市中体連 を終えて

いわき市中学校体育大会は去る5月30日・6月1日の陸上大会をかわきりに開催され、6月17・18日の水泳大会で終了しました。

各部とも、新チームになり1年間、この日のために練習を積み重ねてきました。残念ながら、団体戦では、県大会出場権は得られませんでした。陸上7名、水泳3名、卓球女子ダブルス1ペア、体操2名の県大会出場が決まりました。各競技の結果の詳細については、学校ホームページをご覧ください。

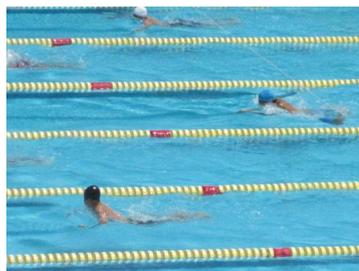
応援ありがとうございました。



陸上：開会式



女子ソフト：出発前のガッツポーズ



男子200M平泳ぎ



サッカー：対平二中
ピッチ中央での攻防



剣道：予選リーグ



バレー：対勿来二中 レシーブ！！



男子バスケ：対玉川中
ハーフタイムのベンチ



女子バスケ：対大野中
シュート！！



野球：対赤井中



体操：床運動 練習中



男子卓球団体：対中央台北中

お詫び：バドミントン競技は日程の関係で、会場で応援できませんでした。(校長)

中体連雑感

今年の中体連では、あと一つ勝てば県大会という試合が多くありました。

(団体：サッカー、女子バレー、剣道。個人：バドミントンシングルス。)

部活動の顧問は、子ども達を勝たせてあげたい、県大会、東北、全国と経験させてあげたいと、みな思っています。中体連に長く関わってきた経験から言うと、どんな競技でも基礎をしっかりと押さえ、計画的な練習メニューをこなしていけば、そこそこ勝てるチームにはなります。

では、全国まで勝ち上がっていくチームは何が違うのか？

激励会のときに生徒に話しましたが、「勝ちに不思議な勝ちあり。負けに不思議な負けなし。」(江戸後期、平戸藩主、松浦静山)と云うことばがあります。楽天の野村元監督が使い、有名になったことばです。

勝つときは、なんだか知らないうちに勝ってしまったと、不思議な勝ち方がありますが、負けるときは、必ず負ける原因があり、不思議な負けはない。という意味です。

競技しているのは同じ中学生、同じルールのもと、同じ程度練習しているのであれば、技能にそれほど大きな差はできません。本校でも昨年度、軟式野球で全国ベスト8になりましたが、全国に行って勝てるチームは何が違うのでしょうか。違いがあるとすれば個々の心、チームとしての心に何かあるのではないのでしょうか。

7年も前になりますが、平成21年、大分県府アリーナで開かれた全中バレーに行ってきました。男子全国優勝の東亜学園は予選ブロックで1敗してしまいました。しかし、東亜学園に勝ったチームは、決勝トーナメントでは勝ち上がれずベスト4にも入れませんでした。全国では、それぞれの試合がほとんどフルセット、得点も20点台まで一進一退の攻防です。25点まで、もしくはそれ以降は先に2点多く取ったチームが勝ちです。このような状況では、1つのミスが勝敗を分けます。普段の練習で、どれだけ厳しい設定で取り組んでいたかが問われます。1本のミスをしないために練習をする姿勢、100本レシーブしたら100本すべて同じところに返す練習です。99本で満足するような練習ではだめなのです。バレーでは、ネット際、ボール1個ずれただけでも設定を変えなければなりません。

これはどんな競技にもいえることだと思います。同点、もしくは1点差での野球のバント、バスケのフリースロー、サッカーのPK、テニス・卓球のサーブなど、ここぞという場面でミスが許されないプレーはたくさんあります。そして、負けるときはほとんどが、ミスをしてはいけない場面でミスをしてしまうのです。それも、練習では絶対しないようなミスが出てしまいます。心の弱さで自滅してしまいます。

心を強くするためには、競技に対して、自分に厳しく、チームに厳しく、チームメイトに優しくだと思います。監督も同じで、自分に厳しく、チームに厳しく、部員に優しく。お友達チームでは厳しい試合には勝てないのです。甘さが最大の弱点になり、自滅につながります。

私は、中学校での部活動では、人生を切り拓き、強く生き抜くための基本的姿勢が培われるものと確信しています。がんばれ！！磐中生。

☆ 今回の中体連では、どの競技・試合も磐崎中生の態度は立派でした。

勝負に勝ち負けはありますが、取り組む姿勢、参加する態度のよさが子ども達のなによりの成長です。